明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三卷

第十一號

明治三十八年十一月二日發行

蹂躙せられたる婦人の權利（堺利彦）……一
戸外に於ける婦女子……五
育兒上の要件……七
醫師と社會（祿亭主人）……九
思ひつけるまゝ……一三
家庭園藝（二葉）……一四
▲家園に栽ゆべき果樹　▲果樹の植付方
▲秋蒔きの花かず〳〵　▲園藝行事（十一月）
愛（山口孤劍）……一八
新世帶（渚山）……一九
予の家庭生活……二八
凱旋雜感（筆ついで）……三〇
來年の本誌……三二

由分社

東京市麹町區元園町壹丁目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

木下尚江氏著述小說

小說 良人の自白

上中下全三册（三册價 壹圓／各册價卅五錢／郵税を要せず）

明治卅八年の文壇を驚破したる木下尚江氏の大作『良人の自白』は、今や新に下篇を發行して全部完結せり、我國最近の思潮に接し我國最近の文學を談せんと欲する者は必ず先づ此の大作を熟讀せざる可らず

小說 火の柱 第十版

價三十五錢 郵税を要せず

是れ木下尚江氏が文壇に大名を成せる處女作也、『改革者の模範』と『貞烈の理想』とは凝つて此の作の男女二主人公を成せり

賣發所 東京麹町區元園町一丁目二十七番地 由分社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年九月廿九日印刷
明治三十八年十一月二日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎

印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助

發行所 東京市麹町區元園町壹丁目廿七番地 由分社

大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地 近藤商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覽會出品有効賞牌受領

貳等賞 褒賞 受領
參等賞 褒賞 受領

御半ゑり帶揚類

最新意匠案出魁の特長なり

染模様 縫模様 絞り形 染絞り模様

ゑり治販賣品概目

○四季草花半ゑり○四季花鳥帶揚○下締め 別織六寸巾 伊達巻博多 ○小女方御祝用しごき 一丈餘房付 ○四季冬夏肩掛 縮緬

旭織レース、東 華織絹毛尾花 シヨール○夏秋草花け出し 裾よけ絹縮別織四尺巾 裾模様縮緬紹縮緬其外 ○四季草花帶片側地 丸帶共

鹽瀨羽二重絹縮山繭格子地 紹縮緬紹絹ちゞみ其外 ○おこそ頭巾 御紋入角に絞り模様入 ○懐中御祝帛紗地○兒女方涎かけ○同守

巾着○西京御召前かけ地 其外夏用 ○特色別染浴衣地 瓦斯縮 島縮み 瓦斯眞岡 島眞岡 紹縮 紅梅織 染抦り入中形 小紋染 格子島 大抦 小島抦絞 模様抜染

數種○絞り染形兵兒帶地 縮緬絹縮大中巾小巾 羽二重地中小巾旭織其外 染色 白地紺地 流行色○疋田絞り手がら 髷掛○帶留め類

美人ひも日本じめ占領ひも式部じめ 金具付丸ぐけ附かへひも數種○たづな絞り 下じめ用 帶とめ用 ○有効褒狀各通受領襟飾子キタイ

(太ダヒー)(細ダヒー)染模様 縫刺模様 其他嶄新優美考案抦 戰捷抦 ゑり治形すゞめ形まけ入 發賣元おろし小賣とも

○高等洗粉 顔肌美白 チエリー香料 バイオレット 雲南麝香入 定價 大瓶參拾錢 小瓶拾貳錢 袋入三錢 發賣元本舗

農商務省認可

登録商標

東京 新橋竹川町十二番地 電話新橋二〇二七 本店 ゑり治

同 神田表神保町一番地 電話本局九五二 支店 ゑり治

同 新橋際帝國博品館內階下 出張店 ゑり治

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◁文藝思潮評論雑誌▷

毎月一回十日發行

火鞭

一部拾錢 郵税一錢

東京市牛込區 火鞭會編輯 南山伏町十四

家庭雑誌曰く。文學好きの方には是非此火鞭を推薦したい

第二號要目

慘酷なる強迫的教育、品性を奈何、一片火、現實の醇化(暢生) 藤ごろも(二十八字詩) ニイチエとションペンハウエル(久津見蕨村) 惡文明論(孤劍) 天眞の詩(介山) 湊川懷古(有香) 塵塚(徳田秋江) 星月夜(蘂世武) 弔ひ戰(若草) 石火鐵火(火鞭會同人) 繪そゝろ言(谷江風) かくれたる人(堺枯川) 小説をぐるま(露月) 勞働の神聖とは何ぞや(島中翠湖) 新講談論(原霞外) 月桂題石(伊藤銀月) これが戀愛であるか(延汪生) 菊(大塚甲山) 小説月日(白馬公子) 殘燈(細口) 鐵の鎖も今し解け(孤劍) 蛻ごろも(半佛) 韓民の服從は神功皇后の時代にあらず(阿部弘藏) 紅藻紫詞(記者)

告白

一、火鞭會は科學萬能主義に抗じて、人類迷妄を打破し、現代の文明を批評して、默移暗遷する時代の黒潮に棹す

二、火鞭會は藝術の爲めに藝術をなさず、形式と技巧とに束縛せられたる軟弱なる文學を排し、藝術の根底に横はれる、人生及び人道の光に觸れんとす

三、火鞭會は批評を以て創作の隷屬となすを彈劾し、炎々たる新生命を鼓吹せんとす

第二號要目

入會志望者は會費及郵税三ケ月分以上を添へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歯科治療

自午前八時至午後六時

神田區須田町二十六番地

歯科醫　吉瀬才市郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意

晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

寒山鑄造銅印規定

方條扁圓形隨意　楓橋式

○五分以内二字迄　○壹寸以内四字迄

○貳寸以内八字迄

以上壹字ニ付金五拾錢トス（別ニ印材代チ要セス）前金到着十日以内ニ郵送ス

住所番地氏名明記

下谷區下谷町壹丁目壹番地

山田寒山

外科皮膚病

梅毒痔疾 外科的婦人科尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋　加藤病院

院長 獨國醫學士　加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時

小田原海岸　毎月曜午前中

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

電話本局八八八番 一三八五番

院長　醫學士　高田畊安

診察　每日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷ハ隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

南湖院

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

副院長　醫學得業士　林止

診察　院長出診土曜日午後、副院長診察每日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷ハ隨時應需、土曜日午後施診

高田病院施診所

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

主任　醫學士　松田三彌

診察　每日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法チ示シ處方箋チ與フ○往診應需

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十九年

吾家の歴史

定價 折皮八十錢 布三十五錢 郵税六錢

日記の如何に有益にして、必要なるかは、亦多言を要せず、『吾家の歴史』は一日を往來、爲したる事、得たる思想、社會の出來事、雜事の諸欄に分ち、詩歌と、格言と、殊に其日に起りたる歴史上の事實を記載したるは、趣味參考頗ぶる至れりと云ふべし、毎月の終には會計表と、日曜表と訓言とを添へ、卷頭に、結婚、誕生、永眠等の家務錄と宿所姓名表とを付し、卷尾には、日々必要を感ずる法令、其他の便覽を付したり、其用意の周到と注意の綿密なる、蓋し稀に見る所の日記簿なり。

發兌 東京京橋區尾張町 警醒社書店

渡邊房吉君譯

青年會同盟叢書

青春ノ危機

定價三十五錢 郵税六錢

見よ『青春の危機』漸く成りぬ。曩に米國神學博士ストール氏良著を出して世を裨益する處頗る多し其一を名けて"What a young man ought to know"といふ渡邊房吉氏譯述して之を青春の危機となす諄々として青年のためによくいはんとする處を盡せり加ふるに事理徹底文辭麗雅を以てす、甚だ痛快の好文字たり、以て精神の高潔を維持すべく身體の墮敗を防遏するに足らん、吾人はこの種の書の新たに我讀書界に加へられたるを悦び洽く江湖に推薦せんと欲するものなり、

小山正武氏譯 バウン博士著

基教信徒ノ生活

定價三十五錢 郵税四錢

バウン博士が穩健なる卓識を以て『基教信徒の生活』に於ける要點を述べ以て彼空論迷信躁動の弊を破り以て信仰向上の大本を極めて平易に簡明に示されたる者信者及び求道者の爲め好伴侶たり好參考たり、

東京市京橋區銀座四丁目 内外書肆 教文館

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌
第參卷 第十一號

蹂躙せられたる婦人の權利

（予が眼前の一實例）

堺利彥

讀者諸君、予をして茲に少しく、予の最も親近せる一婦人の、氣の毒なる身の上に就て、諸君に訴ふる所あらしめよ。

彼女は兼て病身の爲め空しく其の二十代を過ごし、年三十に近くして今年春漸く或男子と結婚した。其の結婚が淸き愛の爲なりしか、生活上の事情に迫られたるものならざりしか、それは予が今茲に言はんと欲する主要の點では無い。

兎にかく彼女は習慣の命ずる所に從ひ、仲人を定め、結納を取交し、此頃流行の神宮奉齋會に於て三々九度の盃事を爲し、諸事型の如く結婚の式を濟ました。爾後、彼等夫妻は新しき家庭を作り、人目には何事もなく、樂しげに數個月を過ごした。然るに、何ぞ計らん、彼等二人の間には、早く既に不和が生じて居たのである。夫は屢々怒に乘じて其の新しき妻に向ひ、例の『出て行け』を浴せかけて居たのである。妻は其度每に涙を垂れて此の無情なる夫の侮辱を忍んで居たのである。而うして遂にはそれが、一時の怒に止まらず、表立つての離緣沙汰と爲つてしまつた。

恰かも其時、彼女は正に姙娠の徵候を示して來た。謂はゆるツワリの時期となつて來た。而うして其れに伴うて脚氣の氣味さへ見えて來た。大概の夫婦間の爭ひは之が爲に消ゆべき筈である。夫は之を見て稍や色を和げ、脚氣には何よりも先づ轉地が必要であるとの理由の下に、兎もかくもとて彼女を里方に預けた。

里方に於ては、既に離緣沙汰となりかけて居た折柄の事とて、預る事は預るが、此際正式に結婚の屆出をして呉れと要求した。此の屆出は疾くにも濟ますべきであつたのを、當今の時勢に疎き人々の事とて、是ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で等閑に附せられて居たのである。然るに、先方に於ては、此時急に其の態度を變じて、どうも矢張り家風に合はぬと思ふから離縁にして呉れと申込んで來た。里方に於ては、本人も、父母兄弟も、痛く此の先方の態度を怒つたけれど仕方が無い。さりとて此儘にして負けてしまふのは、餘りに道理の立たぬ譯であるので、兎にかく之を法律に訴へて見る事となつた。

予は乃ち彼の人々の依頼を受けて、予の友人なる某辯護士の許に此の法律問題の相談に行つた。

處が先づ第一に、結婚の届出なき男女の關係は、法律の眼中に於て一切之を認めぬと云ふのである。民法以前の法律にては、例へ届出は無くとも、實際に於て夫婦關係を生じて居たと認めらるゝ場合に於ては、法律は矢張り之を夫婦として取扱うたが、現行の新民法にては、例へ三年、五年、乃至は十年、二十年、實際夫婦として同棲して居ようとも、届出の無い限りは斷じて其の關係を認めぬと云ふのである。

して見ると、今の日本の法律は、單に届出のみを以て結婚の形式として居るのである。仲人も、結納も、三々九度も、神宮奉齋會も、法律の眼中には一切無効の儀式である。尤も、此の儀式といふものが、一般世間の考ふるほど、さまで重要であるか、否かは問題で、予の如きは敢て之に重きを置く者では無い。其點に於ては、予は寧ろ民法に贊成するが、然し、實際に於て、正當の結婚なり、正當の夫婦なりと、我も思ひ人も認めたる男女關係、殊に同棲すると久しうして子まで爲したる仲をば、只届出の手續の缺けたるが故に、斷じて之を夫婦と認めぬとは、隨分おかしな譯である。若し斯くの如きものが法律の眞意であるとするならば、法律といふものは實に奇妙なものと謂はねばならぬ。

元來、法律が男女の關係を規定して、夫婦といふ者を認めたのは、双方の權利々益を保護せんが爲であらう。されぱこそ、一旦結婚したるものは、是々の場合には離婚を請求する事が出來るけれど、其外の場合には(一方が之を承諾せぬ時には)決して之を許さぬと、規定してあるではない乎。此の法律の文字の中には、明か

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に婦人を保護して其の權利々益を完からしむるの精神が現はれて居るのである。然るに、其の婦人を保護する法律が、只だ結婚の届出を怠つたと云ふだけの場合に、飽くまで冷酷の態度を取つて、殊更に婦人の不利益になるが如き決定を與ふるとは、實に譯の分らぬ話である。只だ一通の届出さへあれば、法律は飽くまで婦人の權利々益の爲に其の妻たるの地位を保護して離婚を許さぬが、其の届出が無い時には、他に如何なる重大の事情があらうとも、法律は飽くまで知らぬ顔をして、婦人の權利々益の蹂躙せらるゝに任すといふのは餘りに馬鹿々々しい話ではあるまい乎。

そして之を世間の事實に照して見るに、實際の結婚と同時に若しくはそれ以前に届出をする者は殆んど無い。大抵は結婚して後、數月或は數年を經て届出をするの例である。子が産れたので始めて氣がつき、大きに慌てゝ結婚届をするといふ氣樂なのも甚だ多い。甚だしきは遂に何等の届出をせぬのもある。して見れば、今の民法の規定は、實際に於て、婦人の權利々益を保護する場合よりも、之を蹂躙する男子を保護する場合が却つて多いかも知れぬ。されば此の法律は、男子が婦人を玩弄にして、そして其の責任を免るゝに都合の善い樣に、態と拵へたものだと云はれても仕方があるまい。眞逆そんな精神であらうとも信ぜられぬけれど。

そこで前記の婦人の場合も、只だ届出を怠つて居たが爲に、法律の眼中に夫婦と認められず、從つて此の無法なる離婚の請求に對して、婦人は少しも法律の保護を受ける事が出來ぬ。民法には、是々の場合の外、離婚を請求する事は決して出來ぬと、嚴重に規定してあるのに、其の民法の治下に於て、彼女は（他の多くの婦人と同じく）德川時代の合言葉そのまゝ「家風に合はぬ」といふ理由の下に、涙を呑んで屈辱に甘んぜねばならぬのである。

予は此の次第を講究して、彼の辯護士某君と共に、此の法律の不都合を痛切に感じ、其の改正の一日をも緩うす可らざるを悟つた。

然しながら、民法の改正は到底眼前の間に合ふ譯で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

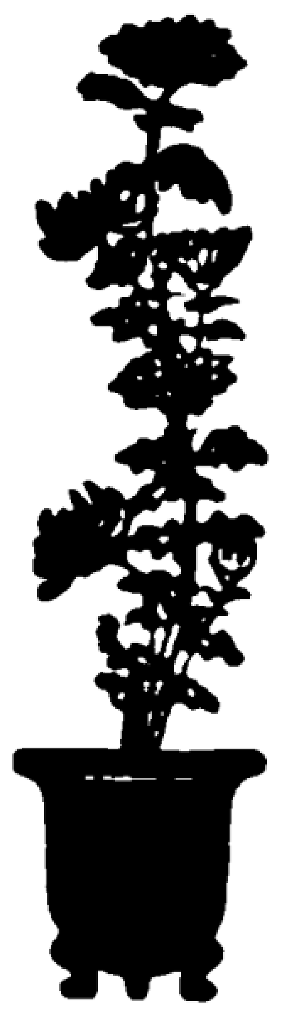
ない。今差しあたり彼女の爲に取るべき、何等か利益の方法（責めて其の名譽を保つに足るべき方法）はあるまいかと、予は更に其事を辯護士某君に相談した。處が某君の曰くそれには先づ、結婚の契約を履行せざるに對する、損害の賠償を要求するより外はあるまい。結婚の契約は普通の契約と異なり、法律の力を以て、強いて相手方をして之を履行せしむる譯に行かぬものであるから、今更結婚の屆出を先方に迫る事は出來ぬ。そこで殘す所は只だ損害賠償の要求となるのである。然し、結婚の豫約といふ事は法律上に認められぬ、故に損害賠償の要求は出來ぬと云ふ法律論があるかも知れぬ。又、結婚の破約の如きは、見積り得べき損害で無いから、其の賠償を要求する事は出來ぬと云ふ論もあるか知れぬ。然し、實際に（普通の意味に於て）結婚して居て、只だ屆出だけを怠つて居たと云ふのは、許嫁が無効であるのとは譯が違ふ。又、法定年齡に達せざる男女が、父母等の同意を得ずして、爲したる結婚契約の無効であるのとも、譯が違ふ。況んや此の婦人の場合の如きは、男女とも、父母等の同意をも要せず、全く獨立の意志を以て結婚し得る年齡にも達して居り、實際夫婦關係を爲して居た事に寸分の疑ひが無く、殊に姙娠までして居るのであるから、此の男女間に契約が無かつたとは、如何にしても言はれぬ道理である。又、其損害が見積り得られぬと云ふ譯も無い。一たび一男子と同棲して（殊に姙娠までして）は、婦人として後來他の男子と結婚し得る機會は甚だ稀となる。然るに、婦人の結婚は（或見方に依れば）殆んど男子の職業に就くと同じもので、結婚の機會を失ふのは即ち生活の道を失ふのである。されば、其の生活の道を失ふの點よりして、明かに損害を見積り得るのである。又、其他にも、破約より生ずる憂愁に對する慰籍料、及び名譽の毀損に對する賠償としても、其の身分等に應じて相當の金額を要求し得るのである。

某君の、法律家としての意見は、凡て右の如くであつたが、某君は更に他の見地よりして次の如く論じた。曰く、區々たる法律上の論爭は孰れにせよ、若し此の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賠償の要求が成立せぬとすれば、日本婦人の權利は實に男子の脚下に蹂躙し盡されたと云つても善い。此の場合の事件に就ては、まだ判決例も出來て居らぬが、兎にかく是は婦人の權利の爲に極めて重大の問題である。是は是非とも法律界の大問題として講究せしむるの價値があると思ふ。

予も亦實に某君と同じく、此の事件を以て、婦人の權利に關する極めて重大の問題と爲す者である。予は更に某君に對し、彼女の胎兒を其父に認知せしむるの件、及び其認知の上は、分娩費及び養育費を請求するの件等を問ひたる後、猶ほ此機に於て相共に此問題を講究すべき事を約して、深き義憤の念を抱きながら彼れの家を辭し去つた。家庭雜誌の讀者諸君も、願はくば此の問題を熟考されよ。



戸外に於ける婦女子

平生家にのみ在つて電車と云ふものに乘る機會をない人、或は地方の人などには、稍耳遠い感があるかも知れぬけれど、吾等のやうに始終東京の市中を縱横に往來して、この文明の利器の恩澤に慣れ切つて居るものには、車上での人物の觀察が一種の退屈しのぎとなつて居る。中に就て、殊更吾等の目に入り易いのは、其昇降の際並びに車中に於ける日本婦人の態度で、善き意味から云へば、注意深くて、そして謙讓であるかも知れぬが、吾等の目より見れば、實にこれほどの迂濶はないと思ふ。そして謙讓と云ふよりは意久地がないと云ふ方が適當であらう。假令ば、停留塲で電車が止る。こゝに一人の婦人が居てそれに乘らうとする。如何にも急いて居る樣子だから迅速に乘込むかと思ふとさうではない。何か忘れ物でもして來たと云ふやうな調子で、後ろを振つて見たり、中には自分の行くべき方面を車掌に話して、更に如何なる種類の車に乘るべきか、と云ふ事を其時初めて聽いて居るやうな人もある。

或はまた、車を乘換えればならぬと云ふやうな塲合の騷ぎと云ふものはない。幾度となく車掌に尋れて見るが、元來其邊の智識には外國人なので、容易く解る事も急には會得が出來ぬ。それで、更に隣席の客を煩はして、子供に敎へるやうに説明をして貰ふ。最も甚だしいのは、自分の載つて居る電車が、果して何れの方面に向つて進んで行くのやも知らず、萬事人任かせにして、少しも自己の意思を持つて居らぬらしい。此種の人が車上にある時、我等は期せざる滑稽に出合つて可笑しさに堪へぬ事が屢々ある。そして、これが必ずしも地方の人と謂ふではなく、幾十年の長き間都會生活を續けて居る婦人である事を發見する時、我等は驚きは絶頂に達せざるを得ぬ。漸くにして車掌臺に昇る、入口に手を掛けて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さて其目は何處にあるだらう。其目は自分の座るべき空所を見出す爲めに、二間有餘の長き兩方の腰掛に濺がれずして、却て自身を去る二三尺の所、即ち最も端近の所に於て無理に僅かなる空所を發見しやうと力めるのである。腰を掛けて居る人と人との間に、二三寸も空地があつたら、其婦人は悦てゝそれに割込むであらう。そしてやれく先づ一安心と云つたやうな顔付をして、外出と云ふ一大事業の端緒に就いた事に心から喜ぶのが常である。のみならず、それが爲に隣りは客は大變に窮窟を感じ、車中の前方に目を向けて見ると、所謂奥は千疊敷で、更に數人の客を容れるに足る程の廣き空所を殘して居る。と云ふやうな事が度々あるらしく見受けられる。

尤も、右等の婦人は固より敎育のない、世事に暗い、普通智識に乏しい、舊式の婦人仲間で、輝く未來を有する年若い婦女子にあつては、まさか斯う迄倫れであらうとは思はれぬ。だが、(何時も輕薄な世間の噂の上に昇る女學生の間には、乘客に對して少しの遠慮を持たぬどころか、自身の爲に席を讓らぬ男子でもあれば、あてこすりの一つも云つて、辱しめてやらうと云ふ風の突飛なのもないでないが、此等はまあ時代敎育の別産物として置いて姑らく問はず。)並に大多數の婦女子は矢張此例に洩れぬのは殘念である。見よ。此等の若き婦人が偶然男子客の多い車に乘合いした時、彼女は裏心に全く恐るゝ色なく、憚する心なく、平然と面も美しく面を上げて、平生の如く思考し且つ觀察し得る餘裕があるであらうか。男の中に這入れば、(元來日本の男子には婦人を寵愛する心はあるが、これを尊敬すると云ふ一面の情緒が欠けて居る。そして、眞に婦人を愛するの情を持ち乍らも、上部では冷かに、愛も何もないやうな顔付をするものである。)婦人は大抵は下を向く。殊に内氣なるは、友達と口を利く事さへも避けやうとする。男子から聲を掛けられると、直に顔を赤くしてどぎまぎする。などは今日に於ても往々にして見る圖である。我等はある種の外國婦人の如く、餘りに驕慢で鼻張りの強いのには感心せぬけれど、而もある水平線迄は頭を上げて、所謂謙讓の美なるものを打破はされねばならぬ。話は少し餘事に移るが、日本流の畫家に美人を描かせると、其形は俯向いて居るのが主で、それに多くハンケチなどを口に啣えさせてある。これは嬌羞の美を顯はせる積りであらうと思はれるが、それにしては、折角の笑顔をハンケチで態々隱すのと同じて、何と云ふ不自然であらう。

それから、床しい夫婦連などに車上に會ふ事があるが、傍から見て居ると、形式は整つて居乍ら、内容に於て甚だ物足らぬ點があるやうに感ぜられる。先づ其細君の態度が大變に卑怯で、氣兼れ勝ちで、普通の聲でものを言はぬ。唯折々夫から強ひられる場合は、一口二口の應答へをするのみで、後は直に其口を噤んで了ふ。これを同じ車上の西洋の夫妻が、始終樂しげに打興じ、種々なる問題を互に語合つて、快活に太膽に萬事を處理して居るのに比べるならば、かれこれは春郊の眺めの如く、一は冬枯の野の如く、其間に天地の差を認める事が出來るのである。

育兒上の要件

ある小兒醫の話に、日本の小供は一般に神經が過敏すぎると云ふ。其原因は、第一、日本の家庭の習慣として、常に家族と雜居して居るので、何につけ彼につけ、常に小兒は大人のいふ事する事を見聞し、知らず〳〵の内に眞似するやうになるからである。親達もまた小兒にはませた口の利きやうや動作などを喜んで、お客の前でもそれを小供の藝としてやらせては喜ぶと云ふ風故、自然とその弊を助長する譯になる。一體小兒は眞似する事を面白がる者で、大人の云ふ事なす事は直に覺え込む。それで、智惠付きが早く、代りに神經が過敏になる次第。これは、育兒上最も注意を要する點で、今後の親達は從來の惡弊から脫出せねばならぬ。

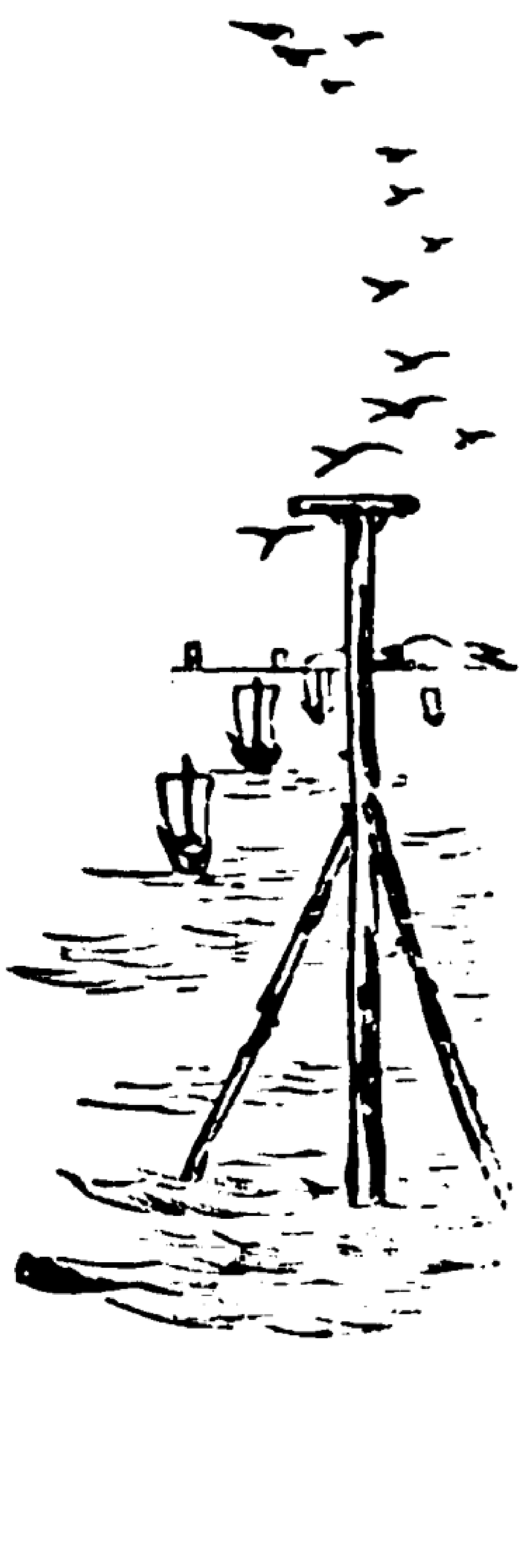
それから、日本の小兒はあまり着物が温か過ぎる。小供に澤山着物をきせるのは宜しくない。特に日本の寢具は綿の這入つた重々しいもの故、骨格の軟弱な小兒には餘りに重く、息も思ふやうに吐けない。小兒には毛布が一番であらう。食事に就いては、晝餐に一番御馳走を與へること。など云ふ說があつたが、一々尤もであると思ふ。記者はこゝに一寸思ひ付けるまゝ、少しく品性上の研究をして見やう。此間と云つても、先月の事、ある家の前を通ると、板塀の上から、美しい柿が如何にもうまさうに實つて居て、そこに五つ六つから十歲迄位の小兒が三四人居て、私かに其柿に長い竿竹を差出して居るのに目を付けた。無論小供達は記者を見て竿を投げ出し、這々の體で逃去つたが、記者は心から嘆はしく思つた。この『私に』と云ふのが一番恐い。それは小供の事故、美しい柿を見れば欲しい。それで、欲しいなら何故欲しいと云ふ意志を親の前、若くば他人の前へも、赤裸々に發表せぬか。若し同情のある親なら、其いつはらぬ子供の心を喜んで、直ぐに八百屋から買つて來てやらうし、又其柿の木の持主が、その可愛らしい罪のない口で『をぢさんあの柿頂戴。』と云ふのを聞くならば、乾度其天眞爛熳の心に感

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じて、柿の三つや四つは、其の塲でちぎつてやるであらう。

記者は萬事斯うゆきたいと思ふ。今前の例で云つて見れば、他人に見られて直ぐ逃げ出すと云ふのは、餘程賤しい心柄で、又太膽な行爲であらう。何故とならば、これ既に『惡を』自覺しつゝ惡事を働いて居るのではあるまいか。これが若しほんの子供心に、柿の色の美しさに釣られ、思はず知らず竿を取上げたと云ふやうな動機であるならば、多少其内に美點を認める事も出來るけれど、他人に見られて逃出すやうでは仕方がない。後世恐るべきうそつきは、往々にして斯かる子供の間から出るものである。

斯の如き小供――元來正直であるべき筈の小供の精神をば、斯の如く曲つたものにして了ふのは、一に兩親と周圍とが其責めを受けねばならぬ。これに就いて、第一に考へねばならぬ點は、極めて平凡な「正直」と云ふ事である。吾等は心に思つた事と、思つた事を實行することゝの間に、一分の隔てもあつてはならぬ。兎角、思つた通りを口に出し、行ひに顯はすが善い。と云ふ話を種々聞かせて、そして其習慣を養はせるのが肝要であると思ふ。尤も、此話を說明すに就いても、唯倫理の講釋にのみ骨を折つたとて、畢竟効果の擧らう筈はない。一方に良心の光を明敏にすると同時に、他方に在つては、活きた情の力を作り出すにある。どちらかと云へば、良心の働き、良心の助けを仰かねばならぬやうなのは、餘り好ましくないので、つまり淸らかな美しい情の力を涵養して、良心の助けを餘り受けさせぬやうに、工夫し考究するのが育兒上の最要件であらう。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醫師と社會

〔兩者衝突の眞相如何〕

祿亭生

余は田舍の一醫生であるが、同業者が相會する塲合に於て、往々社會が醫師を冷遇すると云ふ苦情を聞く事がある。此の程も我が同僚間に、醫業は賃仕事であるや否やの問題が提出せられ、或人は之を普通の賃仕事と同視せられては困ると言ふた。然るに之を社會の側から見れば、醫者と言ふものは病人に對して至極橫柄なもの、又不親切なものであると言ふ苦情がある。本誌前號の筆ついでにも、醫者と言ふものは呼びにやつても容易に來てくれぬ、と云ふさる人の話が出て居た。斯の二つの苦情は醫者と社會との双方が平生互に抱いて居る不平の一端を洩したもので、兩者の間に必ず衝突すべき點があるを示すものである。而してどちらも其一方のみを聞いて見ると相當の理由ある苦情であつて、衝突の眞相と云ふものは容易に解かり兼ねる。けれ共よく考へて見ると、大切な生命を預る醫者と之を預ける社會との間に、斯の如き行違ひのあるは甚だ不快な事で、若しも今日の塲合全く之を融和する事が出來ぬとしても、其眞相を究めるだけでも必要であらうと思ふ。そこで余は斯く錯雜した問題を解く程の力を持つものではないが、唯自分が十數年間此業に從事し、兩者の內情を幾分か呑込んで居るにつき、此問題を研究するに便利の位地に在るを利用し、而かも自己の利害と境遇より免かれ、全く身を局外に置きて之を觀察して見やうと思ふ。

先づ、醫業は賃仕事なりや否やと問ふに對し、余は之に然り然らずと答へんとするものである。何故醫業が賃仕事であるかと言ふに、今日の醫者と言ふものは其報酬の多少によつて大に治療の仕方を異にする、例へば大學敎授の如き學理の講究を專らとする人でも、病院に於ける幾百の患者は之を粗漏に診察し、自宅に於ける少數の華客を鄭寧に取扱ふと言ふ。又醫師が信賴して使用したしと思ふ新藥や治療血淸の如きもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、其價高き爲め汎く之を應用し兼ねる場合がある。又特別診察料を拂へば、外來患者の順番を無視して早く見てやるとか、往診料を一里につき何程と規定すると云ふ事などを考ふれば、醫者は他の賃仕事を爲す者と少しも變りなく、醫者自身も亦その賃仕事なるを自白して居るものである。

然るに又、他の方面から考へて見ると、醫者と言ふものは決して賃仕事を爲すものでない。彼等が刀を握りて肉を割き骨を裁つや、只管病と戰ひ人を活かさんとする天職に對し、一種崇高なる感に打たれて之を爲すのみで、一分切れは何十錢一寸縫へば何圓と言ふが如き、冷き金錢の考へを以て之を爲すものでない。此點から見て醫業が賃仕事でないと言ふ事も確かに認められるのである。併し余が茲に附言せんとするは、單に醫業のみならず、總ての職業が本來は賃仕事たるべきものでないと云ふ事である。世に賃仕事なりと思はれて居る大工左官の業を見るも、唯何錢の爲に何枚の板を削り、何十錢の爲に幾坪の壁を塗ると云ふ考へのみを持ては、決して立派なる建築を成し遂げる事は出來まい。又按摩や車夫の如き職業でも、其一摑みが何毛に當り、一足が何厘を價するとは恐らく彼等の言ふに忍びぬ所であらう。

斯くの如く人間の仕事は、總べて錢を以て買はるべきもので無いに係らず、唯食ふ爲に働くと言ふ現社會制度の下にありて、止むを得ず之を金錢に換へるのである。そこで學者は授業を賣り、僧侶は讀經を賣り、醫者は手術を賣り、幇間や醜業者は媚を賣らねば生活が出來ぬ事になり、本來神聖なるべき職業が今日では悉く汚れたる賃仕事と成り果てたのである。然るに、獨り醫師のみ高くとまりて自己の職業を尊きものとし、他の賃銀勞働者に優る待遇を、社會に向つて要求するは甚だ無理なる事と言はねばならぬ。

次ぎに社會の方から見て、醫者の報酬は高きに失すると言ふ非難が起る。是れにつき或人は醫業が他の職よりも格別困難なる事、危險なる事、不快なる事などを理由として算へるかも知れぬ。併しながら余を以て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見れば、醫者は醫者たるの素養と伎倆を要する外、之を他の職業に比し特別に六ケしいものでもなく、又之と同し程の危險を冒し不愉快を忍ぶも、尚ほ醫者より遙かに少なき報酬を得て滿足するもの丶あるを見れば、醫者が多くの報酬を要求する理由は別に存するものと言はねばならぬ。而して、余は之が理由の主なるものとして、醫者の生活と營業の費用が餘計にかゝる事を擧げんとするものである。

偖て何故醫者の生活費か過分に必要であるかと言ふに、先づ門構を大きすくるとか、自用車を雇ふとか、衣服を立派にする等、廣告的に費されるのが甚だ多いのである。これは必ずしも醫者の虛榮心を滿足させる爲のみでなく、恰も俳優が舞臺で鎧を着け張籠の馬に跨がるが如き、執業上必要の扮裝なのである。又醫者が玄關を粧飾し綺羅を纒ふ事は其橫柄なる態度と共に、素人に向つて不思議の威嚴を示し、藥効以外に一種の感應を病者の心に及ぼさんとする、所謂魔術的の必要に起因するものであらう。要するに斯の如き廣告や虛飾の爲に多くの金錢を要する原因も、亦今日の醫者が食ふ爲に働かねばならぬ、從つて流行せねばならぬと言ふ社會制度の欠陷に歸するのであつて、强ち醫者が金錢を貪ほるものとのみ言ふべきものでない。

又、當時の醫者が其報酬を請求するに甚だ酷なるを非難する人がある。現に數ケ月前の事、或新聞に醫師が藥價の滯納者につき法廷を煩はし、それが爲世間の信用を失ふて住地を立退いたと云ふ記事を見た。又余が地方にも或人が藥價の督促に逢ひ、日用の道具を賣つて拂ふたと言ふ事を聞いた。之を貧困なる病人から考ふれば、折角病苦を救はれた報酬を拂はんが爲め、何故衣を脫ぎ食を減じて、飢寒の苦を甞めねばならぬかと云ふは一つの疑問である。殊に醫者自分か貧窮なものならば兎もあれ、贅澤なる生活を爲し乍ら斯の如き殘酷なる請求を爲す、强慾にも程こそあれと言ふであらう。けれ共又醫者の方から言へば、今日權利と義務を爭ふ世にありて、正當なる職業の報酬を求むるに何の憚る所あらんや、又現時の如き生存競爭の中に立

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ちて、老後及び死後子孫の爲に貯ふるの必要ある社會に於て、人間の慾を制限するは甚だ六ケしき事で、獨り醫者にのみ寡慾淸廉を望むは無理なる事ではないか。

斯の如き議論を外にして、實際世間には拂へるものを拂はぬ人もあらう、又拂へぬものを强て請求する醫者もあらう。余は自ら此問題を如何に解決せばよきかと熟考の上、三年前より斷然無請求主義を實行した。それで月末や年末に至つても、全く向ふから持つて來るのみに任せ、此方からは催促に行かぬ。前の不納者でも快よく再び之を治療してやり、過去の不足とか滯納と云ふ事を成るべく此方では忘れる樣に勉めた。偖て斯うして見ると世の中の人は皆な正直なもので、拂へる人は大槪拂ひに來る、拂ひに來ぬ人は拂へぬ程貧困なものか、或はそれ以上の事情があるものと見なす事が出來る。而して、余が之を實行して以來の結果は意外に收入の步合を多くし、之によつて何等の損失を蒙らぬ事を發見した。尤も余は此無請求主義なるものを以て一般の眞理であると言ふにあらず、從つて余と異なる境遇にある同業者に向つて之を推薦する譯ではないが、唯自分だけは之を固執する積りなのである。

次ぎに又、醫者の方からも社會に對して多くの不平がある。我々は醫者の價値を誇張するではないが、他の職業とは少しく其趣を異にし、病人から相當の信任を受ける必要がある。世人は全體甚だ死に嫌ひで、又病氣を恐れる事甚しく、一寸氣分が惡るくても非常に心細く感じ、狼狽して醫者を呼びに來る。その邊を考へると、彼等は醫者を信ずるもの丶樣に見えるが、實際之に接して見ると、彼等は自分が信賴して迎へた醫者に向つて甚だ失敬な事を言ふ。例へば「此藥は利目がとろい」とか「特別に早く治して欲しい」とか、「此子はどうしても殺して貰へぬ」とか「死んだものを生かす方がありさうなものだ」とか、まだ甚しいのは往診を賴んで來て、醫者が行つて見ると、病人が遊方へ遊びに行つたと言ふのがある。醫者の藥が利かぬ筈だと占者に聞いて、私かに加持祈禱に賴る人もある。斯の如き迷信家は必ずしも愚夫愚婦の間のみならず、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

可なりの教育を受けた人間にもある。殊に醫師のもてあますはヒステリの如き神經性の病者である。彼等は繰返し〳〵同じ事を述べ同じ事を問ひ、少しくやさしくすればつき上がり、きつくあたれば泣き出すと云ふ始末に困る人物である。昨年の統計によると、余は平均二人位のヒステリ患者を扱ふた事に成つて居るが、若し十人もあつたら此方の生命が到底持たぬと思ふ。余が診察所の壁には大きな地圖を掛けて置き、こんな病人がクダラヌ小言を云ふ時には、之を聞き乍ら外國の地理を研究する事にして居るが、折々トンチンカンの返事をしてやつて、自分ながら吹き出す事などがある。

世人は醫者と言ふものは呼びに行つても、容易に來て來れぬと言ふ不平を鳴らす樣である。若しもそれが貧患者であるから行けぬと言へば不都合であるが、醫者の方から言へば往々不急又は不必要と認めて、之に應せぬ場合も少くない。今日世人が一般に生理と衛生の智識に乏しきは實に驚くべき程であつて、可なり教育を受けた人でも、重症を等閑にしたり、僅かの事にも周章て〳〵醫者を呼びに來る弊がある。斯う言へば、世人は病の輕重を問ふ爲に醫者を要すると言ふかも知れぬが、大凡の判別は素人にも解るべきもので、酢にも蒟蒻にも醫者を使はれては溜つたものでない。余が知人に夫婦喧嘩をする度に呼びに來るものがある。急いで行つて見ると鐵瓶を投げ、煙草盆を壞すと言ふ大騷ぎの最中へ出喰はすが、緩々として行けば喧嘩は自然に治まり、機嫌も亦直つて居るのである。要するに世人は病を治す爲のみに醫師を頼まず、之を話相手にし、之に氣休めを言はしめ、之に機嫌を取らせる爲にも雇ふのであるが、斯くの如く醫者を帮間に代用するは、單に醫師の職務の爲に歎ずべきのみでなく、亦天下の不經濟であると言はねばならぬ。

以上述べ來りし所を考ふるに、今日醫師と社會との間に存する衝突を融和するには、多くの方法と手段を要するであらうが、余は其第一策として、すべての醫師を公職となし、完く賃仕事にあらざるの實を擧げしむべしと主張するものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭園藝　二葉

▲家園に栽ゆべき果樹

神奈川の某女さんからの質問もありましたやうに、家園に如何なる果樹を植ゆべきやは、地方によつても種類を選ばねばなりませねど、家庭の趣味多からしめる爲めのみなれば、先づ、

△四季絶えず得るやうに種々の果樹を栽ゑねばなりませぬ。

△それには餘り珍奇なものばかり選び、兒童をして近隣へ誇らせる材料にならぬやう注意せねばなりませぬ

△なほ出來ることなら長く樹に置いて、或は食後、或は學校よりの歸りなどにちぎつて樂しむを得る、柿の如きも妙だらうと思ひます。

△もしさなくば少なくとも一二ケ月位は貯藏に堪えるものがよいと思ひます。されば貯藏して置いて、右の如く隨時に味を賞することが出來ます。

△素より鋭利的でないのだから、栽培し得る限り多くの種類を栽え付け、兒童に種々の果物の結質工合などを最初から觀察させるは最も有益なことで、また自然物に對する趣味や知識を養ふ上に於ても必要であります。

△併し靜岡に林檎は面白くないと同じく、東北地方に蜜柑はよくないから、此邊をも考へて栽えるがよい。けれど、林檎を二三本植ゑるに良き品種は何だらうなぞとまごつくやうではイケぬ故、そこは本欄へ御相談なさい。併しその時は、何を栽ゑればなぞ、ぽつとした問ではなく、神奈川に栽ゆる梨の早生の良種或は林檎の晩生良種とか云ふ風に願ひたい。

△右のやうな考へで家園に栽ゆべき果樹の主なるものに指を折ると、先づ柿、桃、蜜柑類、梨、林檎、グスベリー、カーランド、櫻桃、栗、梅、スグリ、無花果、枇杷、杏、李、柘榴、銀杏などで、皆な地方によつて適不適がありますれば、注意して選擇せねばならぬこと、前申した通りです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲果樹の植付方

樹木を移植するには、第一時節を間違つてはなりません。次には適地を選び、餘り肥料を與へ過ぎず、深く堀り起して而も淺く植ゑ付け、根元へ少し土を盛つて置く位ゐにすることです。素人は深く植ゑればよいと思へど、それは誠によくない。また植ゑる時、根と枝振と釣合をよい加減にせぬと、間々失敗します。根が少いのに切るのが惜しいとて枝條をたんとつけて植ゑたり、枝がないのに根ばかり其儘に植ゑ込んだりすればよくないと思召せ。それから能くやることだが、植ゑて一二週間も經てば『もうついたらう』なぞと手をかけて引いたりゆすつたりしてみることです。これは植ゑつかつて新根を出し(春なら)かけた處をビリ〳〵やられるので、折角のを臺なしにして了ふことさへ往々あります。注意せねばなりませぬ。

▲秋蒔きの花

少し遲れたが、まだ急いで蒔けば來年の秋迄待つの愚に勝らうと思ひ、又二三讀者諸君の御質問もありましたから、左に秋蒔かぬと工合のよくない草花丈け揭げました。

カーチーション	Carnathon	石竹科
ダイアンサス	Dianthus	同上
セントーレア	Centaurea	菊科
シチラリア	Cineralia	同上
ルドベキア	Rudbeckia	同上
バイオレット	Violet	菫菜科
パンシー	Pansy	同上
エスカスコルシア	Eschsholtgia	罌粟科
虞美人草	Papaver	同上
罌粟	Papaver	同上
スウイートピー	Sweet Pea	荳科
ルピナス	Lupinus	同上
美女櫻	Verbena	馬鞭草科
カンナ	Canna	曇華科
ガウラ	Gaura	柳葉菜科
サルビア	Salvia	唇形科

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ミオソチス myosotis　紫草科

スウイートアライサム Sweet alysam　十字花科

右の外、日々草、矢車草、月見草、金雞草、葵類、俵麥、牡丹げし、なでしこ類、水仙翁、ピランジ、紅花菜、フロックス、雛菊、をだまき、金魚草、庭石菖、桔梗、紫羅蘭花なども秋蒔きがよいと申します。

▲園藝行事（十一月）

早や菊の咲く時節となりました　此月家園の課業は、先づ、

△豌豆、蠶豆、夏大根、などを蒔き付けねばなりません。豌豆丈けは來月になつてもよいが、時節から云へば、本月が蒔き時です。

△桃、梨、櫻桃、五加木、八金盤、冬牡丹、三椏、黄雁皮、柳、胡枝子、天門冬などもそろ〳〵移植にかゝらねばなりませぬ。それから、

△藻菜蘿蔔は、此晩秋初冬の間に、其太き根を三四寸に切り、それを施肥した畑地へ一尺距位に植ゑ付ければ、來年はそれ〴〵見事に生長致します。

△茶、桐苗、柑橘類、蕃焦、濱木綿等は霜除をせねばとんでもない害を蒙ることがあります。又、

△梅、枇杷、擬梅、肉桂などには、塵芥、堆肥等に類似つた肥料を施りなさい猶ほ、

△梨、榲桲等の繁茂した枝條を撓めて棚を造つて置けば、次年烈風來るも、果實を振り落されることが少ないと申します。

△けし類は一般に移植を厭ひます。

菊 Chrysanthemum

［その花譜］菊の隠逸なるは、和漢ともに名にたちたる花なれば、あらためて云ひ難し。風流物好き目だちたることを嫌へるは、よき女のをつとなどにおくれて、閑なる片はづれに立しのび、よはひも未だ三十になるやならずの盛なれば、さすが髪などおろすべくもあらず。たゞ一人あるをさなきものにひかれて、心ならず世の中に住みわびたるを、はづかしと思へる人々に似たり

（許六の「百花譜」）

［その詞藻］心あてに折りばやをらん初霜の、おき惑はせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

菊池幽芳著

夏子（愛と罪）

前編新刊 鏑木清方畫

清新なる家庭の好讀物として茲に『夏子』を薦む。『夏子』は人生の意義を發揮せる光明に説なり。『夏子』の聲は靉靆たる彩雲を洩る丶女神の聲なり。

▲菊判洋裝弊堂特得釘飾
▲實價七拾錢 郵税八錢

菊池幽芳著

己が罪

十三版前編 實價四拾錢
十版中編 實價四拾五錢
七版後編 實價四拾錢
郵税各六錢

發兌元 東京市日本橋通四丁目角 春陽堂

中附一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ローヤル水ハ

最モ高等ナル最モ
進歩セル最モ名譽
アル化粧水ナリ

定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ

最モ改良セル最モ
優等ナル無害ナル
白粉ナリ

定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

發賣元 つやぶきん

東京銀座壹丁目

佐々木商店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る白菊の花＝(野坡) 黄菊白菊そのほかの名はなくもがな＝(嵐雪) 菊の香や瓶にこぼるゝ水にまで＝(其角)

[その異名] 翁草、いなで草、草の主、百夜草、こがね草、少女草、山名草、星見草、形見草、山路草、まさり草、千代見草、ちぎり草、齢草、殘り草等。

[その作方] 分栽及芽挿により繁殖するを便利とす。共に春彼岸より八十八夜までに行ひ、肥沃なる壤土に植ゐるを可とす。肥としては油粕、乾鰮、大豆粕の類を腐敗せしめ、稀薄にしたるもの、又は人糞尿を薄くしたるものを時々施し、蚜虫、菊虎などの害を防ぎ、手入を怠らざれば素人にても立派な花を得らるべし。而して、少し栽培に經驗すれば、實生により變り咲きを得ることも容易なり。

▲家庭園藝會 といふのが出來ました。機關雜誌「家庭園藝」は家庭好個の師友です。會費は年三十錢で、種子の分配もあるそうです。申込所(北海道札幌、農事試驗場内三瀨眞氏)

▲婦人農藝會 これも年會費三十錢で、目下會員募集中です。機關雜誌「田園婦人」は會員五百名に達する迄隔月發行だと聞きました。彼れと云ひ是と云ひ、それぞれ家庭に田園の趣味を加へ、健全なる娯樂の楽となることでせう。申込所(牛込東五軒町四一、婦人農藝會)

思ひつけるまゝ

▲奥様といふ語は昔時貴人の妻を尊稱して言つたものであつて、今は英語の Lady の譯語として用ゐられてゐる。昔しの大名の夫人のやうに、何んにもせずに床の間の掛物の樣に奥坐敷に祭り込まれた女子を指していつたので、それかと云つて、今日の何々婦人會々長、何々會幹事評議員など肩書附きのスマートレイデイズを奥様といふはちと間違つてゐる、實は衰様と稱してよからう。

▲Lady とは Bread-giver パンを授くる者、即ち克く家庭を調理する者との意味であるが、今日の自稱レイデイは多く Bread-eater パンを喰ふ者、即ち亭主の脛けづりではないか、吾輩は其オリジナルセンスに於けるレイデイたるの性質の具備を、今日の若き婦人に向て要求する。

▲何故、日本人は男も女も讀書といふ事に趣味を有つてゐるのが少いのであらう。三井や松屋には月々五十圓の支拂をする人も珍しくないが、丸善で月に五圓の買物をする人は幾何あらう。其又小數の讀書家の中で、忠實に且つ充分に尊敬の念を以て、眞正に書を讀む人は何百分の一であらうか。

▲道樂半分に面白さうな小說とか一時的の文字の行列を觀る人はあるやうだが、自分の思想を養ふ爲にパワーを獲る爲に所謂「凡ての時に亘るの書」を讀む人はどうもないらしい。

▲昔の人は端座して讀み今の人は臥て居て讀む。昔の人はサブミッスイヴリーに書物に智識を索れ、今の人は批評一遍、否な寧ろ穴探しに讀む。今の人達にどしどし批評されては、孔子もシエクスピアもたまらない。だが、書物なる智識の庫の戸にはちやんとかいてある「叩けよさらば開かるべし」と、先づ始めに一生懸命に叩かなければならぬ。いくら大黑天がえらくても、あの大きな槌を一生懸命に振らなければ財寶は出ないであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛

山口孤剣

春日ながるゝ紫の
光まばゆき緑葉の
香に咽ぶ鶯は
男こゝろとおもはずや

うす紅のあけぼのに
光をかへす花びらの
みだれて匂ふ朝露は
乙女の胸に似たらずや

聖浄の美に憧憬がれて
天の光を慕ふにも
清き眞珠のやわ肌に
熱き血潮のゆらぐにも
緑の谷に湧きかへる

黄金の波に炎精の
光の征矢のほとばしる
朽せぬ色を君見ずや

眩ゆくめぐる彩雲に
銀色ゆらぐ白鳥の
翼に蜜のみだれちる
萎まぬ花を君見ずや

愛の潮しながれずば
詩歌の香うせぬべし
愛の光の消えゆかば
歴史は砂の文字ぞかし

宇宙は愛の脈搏ちて
世界は愛の呼吸かよふ
愛は天なり天は愛
人の生命の社なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新世帯

この物語は、その初め亞米利加で、みすぼらしい飾りのない小册子となつて顯はれたのと非常なる評判となり、見る〳〵内に五六版を重れたと云ふ位有名なものです。但し、其作者は謙讓な德を供へた人であつたらしく、當時匿名で出たのが、いまだに分明ならず、一つの疑問として彼地の讀書社會に殘つてゐるやうな次第、題は「生活の三方法」と云ひますが、本號に揭げたのは其第一方法です。この作を單に文學的見地より見るならば、左程に賞讃する程の價値もないのでせうが、主人公夫婦の思想が飽く迄も健全で、常識的で、それに信仰の强い力が二人の精神を眞面目に擁護してをりますから、現代の人情にあきたらず、胸に理想の光明を持てる家庭者にとつては、餘程好き讀物であると思ひます。原作は長いので、往々簡約に端折らねばならぬ所もありました。其積りにて御覽を願ふ。（浴山）

「ぢや正雄、お前は愈結婚する積りかい？」と、叔父が如何にも嚴格な調子で、此方の意志を確めたのである。正雄は少しも臆する色なく、

「はい。左様です。」

「して終日粥ばかりで？」

「無論の事です。それも尙はむづかしければ、あの雜炊を啜つても暮して行く覺悟で御座います。」

「ふむ。成程、だがね正雄、數子は汝と一所に眞實苦勞をする氣でゐるかどうだか……」

「それはもう充分彼女も承知して居ります。ですから私は一生懸命に勉強して、兎も角生活の必要丈は儲けてゆく考へです。」

「そうはいふけれど、實際それが出來るか知ら？」

正雄は決然として、

「叔父さん有難い事には、私は頗る强健な身體と精魂とを持つて居ります、これこそ實に積極的の財產だらうと私は考へます。一體金錢のやうな貴い品物には直ぐに羽が生えて飛び去ります、又水や火に遭へば直ぐ消えて仕舞ひます。けれど私の所持して居る物は、なか〳〵そんな脆いものぢやありません。」

「お前の所持して居るものとは一體何の事だね？」

「先づ第一に私の健康でせう。次には活氣、それに職業が確かな財產です。元來醫師と云ふものは、患者に對して注意深くて、丁寧でさへあれば、常に繁昌するものです。併しこれからの生活に最も大切なのは、餘り大きな慾を出さずに、極々單純な範圍で滿足する點です。御承知でも御座いませうが、數子ももう美しい衣類を着やうなど〻云ふ浮いた考へは、少しも持つて居りません。」

叔父は目をしば叩いて、

「それぢやどうあつても結婚しやうと云ふのだな。そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れならそれで議論はないさ。」
「はい、只叔父樣の御承諾を……」
「乃公は別に何も言はん……唯數子の心次第だらう。どうだ數子の方はそれで愈異存はないのか。」
と振返つて姪の意向を伺ふと、數子は口を噤んだ儘、一言も發しないけれど、その心のうちには、自然同意らしい微笑を洩して居る。叔父はやがて少しく頭を傾けて、
「只僅かの收入で以て、儉約して暮して行かうと云ふ分には差支へないが、どうもそれでは一向お前達の身に面白味がなからうと思はれるがどうだらうな。」
と態と諷するやうに云つた。それを數子はどう聞取つたのか、俄に編みかけて居た毛糸細工を疊の上に置きながら、
「あら、叔父樣、妾は不自由してもよう御座んすけれど、だけれど犬や猫のやうに無意味につまらなく暮したいと申すのでは御座いませんよ。それはもう、少しでも世間に善い事をしやうと云ふ望みは、ちやんと私共の心の内に据ゑて置くのですもの。只贅澤な眞似丈は奇麗サッパリと慾の中から取のけてゐますわ。」
叔父はこれを聞いて少しく考込み「世間には善い事をして、そして自分等は粥を啜る——危いものだなア。汝達にそれが出來やうか。」
「いゝえ。屹度實行します。生活費を收入以上に上すやうな事は決して致しません。」
と、正雄は熱心に辨解する。
「さうか。汝が其規則を守つて居る間は、勿論安全に行くだらう。併し、こゝに誘惑と云ふ奴が控へて居るから油斷はならない。現に乃公がそのよい手本だ。」
「叔父樣大丈夫で御座いますよ。正雄はもう眞實の必要品——机と火鉢と、書物より外に、何も不用の物は置きますまい。其代り、二人の間には情愛といふものがちやんと番をしてゐますから……」
叔父が問ひ起すすべての疑問に對して兩人は一々應答をして悉く叔父を納得させた。そして、其日から丁度二週間目に、彼等は目出度結婚の式を擧げたのである。恐らく世の中に、正雄と數子と程琴瑟相和した良緣はないであらう。最初は一文の負債をもこしらへぬと云ふ考へから、家賃の安い場末に小さな一戸を構へたが、それとても、大抵の醫者が開業する時のやうに外觀を張らず、至極質素な體裁であつた。
玄關の左側に、『磯谷醫院』と書いた欅の看板を掲げ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たが、まだ新しいので人の注意を惹かぬ所爲か、終日家に在て待ちかまへて居ても、一向來診者が見えないのである。働かぬ時は讀み、讀まぬ時は談ずると云ふ風で兎も角退屈はしなかつたけれど、開業當日から一週間と云ふものは、到頭藥に手を付けずにしまつた。そこで正雄は考へ直して、『診察無料』と云ふ張紙をしたが、それでも思はしくなかつたと見え、今度は又思切つて、『貧民には施療す』と書加へた。すると、間もなくそれに注目して讀みつゝ通る通行人の聲が聞えるので、正雄は飛び立つ程に喜び勇んだが、人間の慾と云ふものは恐ろしいもので、其翌日からは種々な患者が續々と詰かけて來て、氣儘に遊んでは居られない。勿論藥禮と云つては、一文も入るのではなかつたけれど、蒔かぬ種は生えぬ譬へで、正雄は寧ろそれを賀すべき事に思つて居た。

斯樣に施藥ばかりして、中には往診さへ承諾してやる病家もあつたが、或日の事、見る目もいぢらしいやうな、慘憺たる病褥を見舞はねばならぬ運命に逢つたのである。患者は三人の幼兒を抱えて居る哀れな母で、枕元に孰れかの泣聲が聞えぬ時はない。多分頑是なく空腹を訴へるのであらう。數子が此有樣を夫から聞いた折には、早速羽織を一枚着換へて其家を訪れた事もある。かやうな慈善の行は職務に勉强して居るのと同じく、心に一種の愉快が湧いて來るものであるが、折惡しく其頃は月末の家賃と諸拂をやつと濟せた計りで、最早家には一錢の小使錢もない位。だと云つて、その憫然な貧亡人をば、其儘に手放しにするにもしのびない。身體の健康な者はどんな勞働をしたとて、其日其日の命は繫げる、と、かう殊勝にも考へを定めた磯谷夫婦は、今日もまた少しばかりの食物を携へて例の病家へと歩みを運ばせた。

道程は家から何程もない。やがて案内も乞はずに病婦の部屋へ通つて見ると、まだ朝飯も食べないで、垢だらけの顏をした子供等は、長火鉢を圍んで居る、そして、不圖氣が付いたのはきたない寢床の傍に一人の見馴れぬ年若な貴夫人が座を占めて居る事なのである。其健やかな顏色と、婀娜な姿とは、目下流行の頂上に達して居る、身なりの華美な衣裳と相待つて、如何にも人生の花の時代を眼前で誇つて居るやうに見える。若い貴夫人は暫時驚いた眼で以て、この磯谷新夫婦を見詰めて居たが、俄に病婦の方を振返つて、小聲で來訪者の誰であるかを尋ねた。一方には子供等は各

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自火鉢の傍から這出して來て、數子の信玄袋をば寳物の犬の子のやうにうるさく嗅ぎ廻つて居るのである。數子がそれを制するのは一通りの苦心ではなかつた。此樣子を眺めた貴夫人は、美しい顔を一寸顰めて、慌しく香水を染ませたハンケチを鼻のあたりへ持つて來乍ら、

『大丈夫で御座いませうねえ。よもや傳染病ぢや御座いますまいねえ。』と言つた。磯谷はそれに答へて、

『さうですとも。これはあまりひどく勞働をした處へ、少しも滋養物を給らなかつたので、こんな風に衰弱したのです。』

『おや。』と貴女は態とらしく、ハンケチを目にあてがつて、『何故また慈惠病院へ行かなかつたのでせうか。一體下等社會には一つの惡い迷信が御座いまして、慈惠病院へ這入る位なら乞食をするなんて、申すのですもの。』

『成程、併し輕々しく市の厄介にならずに、飽く迄も自分で支へて行かうと云ふ獨立心は、寧ろ感ずべき心掛けですなア。』と磯谷は答へた。

『妾は今更殘念でならないので御座いますよ。何故早く妾にかうと打明けなかつたのでせう。此病人一人世話する位はどうかなるのでしたに。』

『奥樣、この病人を御存じで入らつしやいましたか。』

と、初めて數子は口を開いた。

『え丶、よくは存じませんが一月餘り宅の洗濯物をさせて居ましたので。』

此時病婦は苦しさうな聲を絞り出して、

『半年餘り！』と心細い横槍を入れたが、貴夫人は一向それに頓着なく、

『處が五六日前にやつと馬丁が此家を探したばかりで、それ迄はちつとも知らないで居ましたの。今朝はあなた少々身體がいけなかつたのですが、押して參つたやうな譯ですの。』

『まあ、どうも御親切に……』と、數子は非常に貴夫人の慈悲心に打たれたやうな面持であつた。

『眞に此方は不仕合せですねえ。』

『さうですよ。だけれども、あなた方が大層御世話をして下さいますので、此女も仕合せで御座います。』

『つい〳〵御世話が好きなものですから。』

『それは妾達の義務ですよ。妾達のやうな身分の者は、何時も困つて居る人を救ふてやらねばなりませぬ。これからは御一所にこの哀れな女を助けませう。』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ひ／＼、帶の間からきらびやかな錦の紙入をとり出し、なにがしかの金を包んで病婦の瘦衰えた掌へ握らせてやつたが、不思議な事には病婦の顏に感謝の色が浮ばぬのみか、寧ろそれを拒絕したいと云ふ氣味があり／＼と見えたのである。數子は氣を利かして、

『あゝ、氣分が惡いのでお禮も申兼ねるので御座いませう。若し妾をお信じ下さいますなら、妾が一時お預り致して置きませう。日々の糊口も出來ない位ですから、大層喜ぶで御座いませう。』

『ぢや、どうか宜しいやうに御願ひ申ませう。若し、あなたに御親切が御座いましたら、此後此女の消息を妾迄御知らせ下さいまし。つい身體がいけないものですから、態々訪ねて來る事が容易でないので。』

數子はこの三人の小供の處置に就て、少しく考へて居る事があつた故、早速四五日の内に訪問する事を肯うた。そこで二人はこの貴婦人を入口の處迄ではなく、猶一歩すゝめて馬車迄丁寧に見送り、態々の枉駕を謝したのである。

家へ歸つて來ると、數子は衣服も着換えぬ内から、良人に向ッて、『あの病人は仕合でしたねえ。お金持の方があんなに親切に……』

『何處を見てお前はあの夫人を金持だと云のかい？』

『何處つて貴郎、あの立派な衣裳を御覽なさらなくつて？』

磯谷は怪しみながら、

『立派な衣裳が金持の證據になるものか。』

『だつて、あなた、あの方のお身分は妾達のとは大變違つて居てよ。御覽なすつたでせう、あのお羽織丈でも、妾のこの服裝そつくりよりも、お金が澤山かゝッて居るのですもの。』

『ふむ。若しあの夫人が衣裳の方にさう金をかける位だと、屹度それは心から人を惠むやうな事をしないのに違ひない。』

數子は少し不足らしく、

『貴郎それは餘りお酷ひわ。ちやんと立派な服裝をした人でしたら、それを金持の方だと見たつていゝでせう。』と數子は少しく言葉を勵ましいつた。

『それはいゝさ。若し世の中の萬事が正直にばかり動いて行くのならいゝさ。併し、僕等は外觀で以て直に內容を推測する事は出來ませんそれと同じ事で、何だかあの夫人の方もわたしたち二人を金のある者だと思つて居たらしいねえ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「イエそんな事はないでせう。妾のこの帯を一目見てもわかるんですもの。」

「さうか、ぢやさうにして置かう。美しさうに眺めて居たのは、多分お前のその目元であつたらう。」

〰〰〰〰〰〰〰

磯谷醫師が苦心空しからず、哀れな寡婦の病氣は追々と快くなツて來た。一方では磯谷の義侠心に感じて、應分の醵金などを申込む人も出來たので、彼女の家には俄に春が廻つて來たやうで、日々の生活にはさまで不自由なく過せる事となつて、障子には紙が張られ、天窓からは烟が棚曳いて、彼女は以前の如く縫物の内職に餘念なかつた。

磯谷醫院も此頃になつて、やう〳〵評判が高くなり、施藥の外に相當の收入があるやうになつた。すると、或日の事、一輛の馬車が威勢よく磯谷の玄關先へ止まつたが、差出した名刺を見た數子は、胸に多少の鼓動を覺えずには居られなかつた。來診者は男爵日下廣三と云つて、五十萬圓以上の富豪家名鑑に載せられて居る人である。彼は以前から憂鬱病に罹つて居たが、今迄に數人の國手の投藥も、何等の著しい效果を示さない。で近來頓に名聲を擧げた磯谷の診察をば、是非共

受けて見たいと、かう云ふ希望で來たのであつた。實際磯谷の身にとつては、これ程また幸な機會があらう筈もない。何とかいゝ工合に繕ろかして、藥を賣らうと思へば意の儘であつたのだけれど、正直に云ふと、彼にはそんな腹黒い處が微塵もない。それ故、若し男爵が病氣の快復を望むなら、醫師に依賴するよりは多く自己に依賴せねばならぬ。と云ふ事から、運動の方法、食事の加減並びに身體を閑散な地位に置く事などを、いろ〳〵と懇切に注意してやつた。

男爵はこの若い醫師の正直な心に動かざるを得なかつた。そして、それと同時に餘裕のなさゝうな生活の樣子を見て、甚しく氣の毒に感じたのである。で彼は辭するに臨み、過分な謝禮を包んで、

「貧民には施療をなさるのだから、私共は二倍の御禮を致さねばなりません。」

と云つて、終りに磯谷が日々往診するやうに賴んで置いて歸つた。其後時間さへあれば男爵家を見舞ひ、愉快な談話をして種々男爵を樂しませた揚句は、あらゆる治療法にも越えて結果がよく、一時病症は忘れるやうに癒えたのである。かやうにして居る内に、磯谷の家庭は漸次に膨脹されて、會計簿の必要をも感じて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來ると同時に、數子が貧民を救助する事にも、今迄のやうに苦勞をせずに濟む事になつた。

話はこゝで一寸換つて、かの貴夫人の上に移る。彼女は今日しも華美な朝の衣裳に身を包んで、軟かい友禪の座蒲團の上に濟し込んで居るのである。何を思ひ出したのか、急に柱のベルに手を掛けると、可愛い小間使がすぐ顯はれて來て三つ指をつく。

『彼の肩掛はまだ持つて來ないのかい。』

『はい。』

『屹度持つて來るやうにと、さう云つて置いたのだらうねえ。』

『左樣申して置きました。』

『ふむ。一寸その壜をおかし。』

かう云つて、彼女が香水をハンカチに灑いだ時丁度番頭らしい男が一個の匣を小脇に抱えて、夫人の部屋へ這入つて來た。云ふ迄もなく待兼ねて居た肩掛を持參したのであつたが、ずらりとならべた五六種の正札を見ると、何れも五十圓から百圓迄の間である。最初の分は流行後れと云ふ廉で、見事に刎ねられ、最後に殘つたのは色合と云ひ模様と云ひ、流石に申分のない品物。併し、價が百圓と云ふのには夫人も少しく躊躇の姿であつたけれど、番頭が例の如才ない調子で、『此品ならば御買上げになつても御損は御座りませぬ。』と効能を述べ立てたから、自然と夫人の心がそれに傾いて來た。彼女の恍惚とした眸は、執念くもその最上等の肩掛の上に注がれて居たが、やがて起上り、華奢な自分の撫肩へ掛て見て、前を見後付を見、丸めて見たり擴げて見たり、さては四つに折つて片腕に掛けたりなどして、

『似合つてよ。どうせ一つはいるのだもの。購つて置くよ。他のとは割合が安いやうだわ。』と、夫人はこのうへもない歡びを面にあらはして居る矢先、俄に磯谷の奧樣が來たとの知らせで、番頭は早々にして辭して歸る。肩掛は鮮やかに衣桁を飾つた。

『まあ、よくお訪ね下さいましたねえ。實はあなたのお出を待つて居つたのですよ。』

と、聊かの隔てもなく、美しい笑顔で以て迎へてくれるので、數子も非常に心嬉しく思つたのである。早速ながら彼女は今日の來訪の趣を告げて、

『貴女は屹度御賛成下さる事と存じて居ります。お蔭で病人は以前の身體になりましたけれど、三人の小供を敎育する事は、實際彼女にはむつかしいので御座い

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。』

『眞實に御親切ねえ。妾も大抵なら多分に寄附をしたいのですが、どうも諸方から絶えず申して來るものですからねえ、只今の處では一錢のお金も都合が出來ませんの。だけれど、主旨は如何にも贊成なのですから、どうかねえ、あなたがお出しなさるのと同じ額を、立換えて置いて下さいな。此次にお出遭ひ申した時にお返しをするとして……』

　數子は快くそれを承諾して、間もなく暇を告げたのである。併し、數子は彼の夫人に對して何う考へても不思議でならないから、家へ歸つて夫の顔を見ると逸早く、

『あの、一寸、妾何だか不審でなりませんわ。あれほど贅澤に暮して居ながら、僅か五圓や十圓のお金がないなんて！』

『はゝゝゝお前にはまだあの夫人が貧乏だと云ふ事は信ぜられない。それを今少し合點の行くやうに話して聞かさう。早い話が、お前と私とはこゝ二月前と較べると、餘程内裏の工面がよくなつて居るだらう。併し、若しこれが高價な物を買込んで、儲けた丈を皆な仕拂ふ事にしたらばどうです。他人に義捐などする餘裕がどこにあらう。强て作れば借金さ。』

『さうしますと、富の人と云ふのは、自分の收入以内で生活する方なのですねえ。』

『無論さ。だから、數さんはこんな處世哲學の眞髓を極めた人と夫婦になつたのを、難有く思つたがよからう。』

　數子は眞實良人の言にきゝほれた。

『僅かなお金で富貴の人とでも云ふのでせうねえ。はゝゝゝ』

　翌日數子は寡婦の家を訪れて、小供の爲に寄附金を募集した事を告げ、一々名前を讀上げて例の貴夫人に及ぶと、彼女は急に身慄を初めた。そしてさゝやくやうに、

『奥樣どうぞあの方丈は、假令御親切があつてもお斷り致したう御座います。』

と云ふので、怪しみ乍ら段々理由を聞いて見ると、彼女は殆んど一年の間洗濯女に雇はれて、到頭一文の仕拂も受けない程の、酷い目に逢うたとの事である。

『あんな方で御座いますから、わたしたちの住所なんぞお知らせをしないで居ましたけれど、差當り食物に困りましたし、一つは又妾が病付いて弱つて居る所を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御覧なすつたら、憫然な者だと少しは思つて下さらうかと存じましてねえ。つい馬丁さんに傳言を頼んだやうな譯なので御座いました。』

數子は無情な貴夫人の仕打を聞いて、暫時呆れて居たが、やがて小聲で、

『まア酷い方なのねえ。』

『妾はあんな方に出逢つたのは初めてヽ御座います。だけれど奥樣、お金持と云ふ者は察しのないものでしてねえ。切めて御自分の身邊に氣をお揉みになる半分でも、稼人に目を付けて下さいましたら、まあどんなに喜ぶことでせう。』

數子は此時燃えるやうな同情の念を抑える事が出來なかつた。

その後二年の月日は無事に過ぎたが、磯谷醫院の評判は院長の名聲と共に、侮りがたい勢力を市内で占めたのである。若しそれ更に家庭の内部を覗ふ時には、大に敬すべき點が澤山あつた。總じて自分の家庭の圓満を誇る人々は、必ず立派な品格を作るべき一種の强い感化力を持つて居るだらう。實に母としての數子は義務を重んじ、勞働を惜まず、今の世の中には珍らしい好摸範であつた。日々の生活は別に最初の主義を捨てた譯ではないけれど、段々と豊かに暮せるやうになり、一年の終りには又幾分かの殘餘金を見る事も出來た。昔からの格言に、貧を嘆くな富を望むなと云ふのがあるが、磯谷夫婦の處世法は、全くこれを事實に顯はしたものと申しても好い。一代の富豪日下伯爵さへ、勤勉で、そして正直なこの醫師夫婦から學ぶ處が多かつたので、伯爵は何時も充分の敬意を拂ひ、豪奢を極めた王城の御殿よりも、この鳥の巣のやうな家庭の方が羨ましい。と述懐した折もあつた。

丁度其翌年、彼は到頭神經衰弱の爲めに斃れてしまつたが、驚いたのは磯谷夫婦に五千圓の金子を贈りたいと云ふ、遺言狀を發見した事で、其時は二人も夢かとばかりに思つた。

山の手の＊＊町を通つた人があつたら、直きに氣がつく事であらう。南向の門構で、洋式の建築物が高く雲に聳えて居る。これが膨脹した磯谷醫院の外觀であつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

予の家庭生活

これは安部磯雄氏が語られたる氏の家庭生活の一班なり。成功記者親しく同氏の門を叩いてこれを聞き、誌上に掲げしものなるが、世間多くの家庭に對し、有益なる模範となるの點數多あれば、記者はこゝにこれを借用して收錄する事となしぬ。

私はまだ家庭に對する理想の幾分を達したといふ譯ではありませんが、兎に角一家が善く調和して、不平もなく暮して行くのは幸福であると思ひます。私は先づ『質素の生活、高尚の思想』と云ふことを、家庭に於ける第一の要義として居ますが、『質素の生活』と云ふことを、私は粗衣粗食するといふのではなく、自分の生活に無益の人手を費さしむるな、と云ふ事であると解釋して居ます。勿論衣食住に贅澤をしないといふのも質素の生活の一部分ではありませうが、寧ろ末の事であります。此考を以て、私と家内との調和したる結合力が一家の中心となり、成るべく人手を借りない、自分の仕事は自分でするといふ主義が、今では善く一家中に貫徹して居ますので、隨分家族の人數が多いにも拘らず、皆な滿足して居ます。例へば娘が小學校に通ふのにも、毎日の袴や本や靴、傘等の始末に、決して女中の手を借りませぬ。

私は子供に對しては成るべく勉めて時間を割き、子供と共に遊び慰むると云ふ方針で居まして、休日等には多く子供を連れて、郊外散歩に出掛けるといふ事にして居ます。一家團欒して座談する時には、必ず子供を中心として、固くるしい倫理道德の話題等は殆んど持出しませず、多くは笑ひ興ずるといふ雜話を主となし、不言の中に感化する方針で居ます。私等自身で決して人に對して惡意を有たないやうに、又人の噂を爲ないで、唯子供にはすべての善き方面のみを示すことに注意して居ます。若し子女が友人に對する不平等を訴ふる時は、必ず友人の處置を善意に解釋し與へ、其不平を宥めてやるやうにします。斯くして、成るべく小供の自然性をのび〳〵と、穩やかに發育させたいとの考へで居ります。

長女が十歳で、次女が八歳になりますが、私はこれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に書籍を用ひずに、英語の口授をして居ます、晩餐後大概三十分の練習を與へますが、餘程進歩して來ました。子女の誕生日には近人知人を招きて盛んに馳走します。又子女に詞舞を習はせて居ますが、これは第一運動の爲めで、また時には家庭集會上の一娛樂にも供します。成るべく一家を愉快に陽氣に爲度いといふことは、常に注意して居る事柄です。

次に女中に對する私の家の取り扱ひ方ですが、私の家は全然平等主義を行つて居ますから、女中でも書生でも、皆な一家の一員の資格で、同等の態度で居ります。子女をして決して呼捨てに名を呼ばしむることはありませぬ。女中は炊事と洗濯との職務がありますから、其範圍以外に私の子女の爲めに手を取らせることは殆んどありませぬ。下女の虐待に就て、往々世間の問題に上つて居ることを耳にしますが、假令虐待にまで至らずとも、奴婢の段階的感情は至る所の家庭に蟠つて居るのが少くないと思はれます。私の家庭では、例へば髪結代湯錢などの日用品や食事等の外形より、精神的態度まで全く家族同等にして居ますが、女中にも此精神が貫徹して居るやうで、全く我家に居る態度であるやうです。斯様であるから、月々の給料は直ぐにそのまゝ郵便局に貯金すると云ふことで、愉快に滿足して居るやうであります。私が東京に家を成して以來、女中は唯六人程更つた許りでありますが、一度私の家を出ましても必ず切々遊びに來ます。一人の女中は私の家を出て看護婦となりまして、今は醫學專問學校出身の醫師の夫人となつて居ますが、矢張度々參ります。私の家では以前と同じ待遇で取り扱ひます。若しこれに對し、下女らしき待遇でありましたなら、必らず不愉快を感せしめて、永く來ることはなくなるでありませう。

私の家庭では食より家、それより衣と云ふ順序で注意をして居ます。私の月收の大部は食事に充てゝ居まして、一日に一食は必ず馳走することに成つて居ます。人々が往々料理店で飲食を致しますのは、平生家に在りて疏食して居るといふ結果が多いのであらうと思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。外宿外食といふことは、私には非常なる禁令であります。夜は大概十一時には就寝することにして居ますから、外出するにしても必ず此時間までには歸へられるやうにして出掛けます。宗教のことは私の家では自由として居ますが、併し、宗教的情操は兒童の時より涵養して置く必要を認めて居ますから、子女は日曜には會堂にやることにして居ます。けれども、すべての家族に宗教的信仰を一型に强ふるといふが如き束縛は設けませぬ。

●削牛蒡の葛煮　（元祿料理）

（原料）牛蒡中二本、昆布煎汁一合、三十匁を水三合に漬て）醬油二勺半、砂糖五匁、味淋酒三勺、葛粉三匁、水二勺　（拵方）牛蒡を水にて洗ひ、上皮を少し庖丁にてこすりて去り、二つ三つ位に切り、かんなにて薄く一寸二三分の長さに削りて、水に漬け、湯煮二十分間して、取出し、直に鍋に入れて、だし、醬油、みりん、砂糖を加へて、煮染め、味のつきつる頃、葛粉を、水にてとき、上より引きながら、中を箸にてまぜ合して、すぐに、合ひたる時おろして、皿にふるべし。削るに庖丁にて削りてもよけれども、かんなゝれば薄くそろひて殊によし、

▲元祿料理は石井泰次郎氏（京橋區鈴木町）が主として工夫し發明し、目下それが料理實習會を同氏宅に開催なし、何時にても會員たるを得ると。

筆ついで　記者

●凱旋雜感

▲十月下半の東京は戒嚴令施行中にも係らず、英國艦隊の招待やら、大觀艦式の見物やら、凱旋の諸將軍と水兵との歡迎やらが引續き、要所々々には凱旋門の巍々として聳ゆるあり、國旗、幔幕、紅燈、イルミチーションと軒並の裝飾美しく、市民は浮かれ、市の役員はシルクハットとフロックに粧はれて、綱引車を縱横十文字に乘廻すと云ふ忙しさ。これを非講和の熱一時に勃發して、内務大臣の官邸燒打の騷ぎに比べると、正に地獄と極樂の相違がある。實におめでたい。

▲ノエル將軍を日比谷に迎へ、主として其實に當つたものは、例の名譽ある市會議員、市參事會員など云ふ連中であつた。彼等の接待振や歡迎の趣向やは、充分費用を惜まなかつた丈に、遺憾なしであつたでもあらう。併し乍ら、なくもがなのゲイシヤを引張出して、笑媚を賣らせたのはどうしても感心出來ぬ。彼等が此種の會合に於て、最も多く婦人の美と優しさに依賴せねばならぬ事に氣が付いたならば、何故今一歩を進めて、各自の奧方や娘達の力を借りやうとはしなかつたか。由來ともすると形式主義に馳せて、實質を忘れるのが日本紳士の特色である。假りにも戰捷文明國の士紳と名乘り、フロックを着け、シルクハットを戴く身で、そして婦人の權利を尊重する歐洲の紳士を歡迎するに當り、數ある接待委員中、一人の夫人同伴者を見出さなかつたとは、何と云ふ矛盾であらう。これに就けても、一番に余等の胸に浮び來るものは、日本男子の婦人を見る目である。すべて、彼等は餘りにそれを粧飾物視し過

ぎて居る。されぱこそ、特に美貌を有する婦人でなければ、それと共に同伴する事を恥づる傾きがある。無論、これには婦人の側に於て、交際の不慣れ、引込思案などの理由もあらうが、男子が婦人の容貌を氣にする事が、婦人を社交場裡に導く上に、非常な障害となつて居るのは事實である。

▲東郷提督の凱旋には、余等に一種の教訓を與ふるものがあつた。それは、赫々たる武勇の裏面に存在する提督の美しき謙徳で、若し彼にして、只武勇一遍の鬼將軍であるのみなりとせば、國民一般の尊敬が今回の如く高潮に達する事はなかつたであらう。但し余等が見て甚しく殘念に感ずる點は、提督歡迎の日、上野の會場へと驅りゆく花馬車の上に、名譽ある東郷夫人の姿を見得なかつた事である。余等は今必ずしもすべての西洋風俗を有難がり、これが移植を主張するものではないけれど、此度の如き提督の光榮が、留守中の功勞淺からぬ其夫人の身に及ばぬと云ふのは物足らぬ。若し、官邊の人達が今少しく婦人の地位を認め、並びに、男子社會がすべての女性に對して、今少しく敬意と同情とを拂ふならば、今回の如き好機會は如何にしても逸すべきでない。率先して、踴躍して、夫人同乘の議を立てゝ、これを懇請せねばならなかつたであらう。かゝる時、後來の日本女性は雄に偉力ある開拓者を得て、其微々たる哀れなる社會的地位の上に、一大利益を幸福とを獲得したかも知れなかつた。

▲東郷提督武勇と謙徳とには殆んど一點一劃も非難の餘地なく、今やその一身は全く光榮で以て包まれて居る。この結果として、國民は擧げて其人格に醉ひ、榮譽に興惚れして、尊崇措かず、有難涙をこぼして只「東郷樣々々」と呼んで居るのである。感情に馳り易いのは我國の特質なれば、これは必ずしも咎むるに足らぬ。寧ろ無邪氣なる特色の一つとして其間に一種の趣味をも見出す事も出來るのであるが、こゝに只一つ、彼等が歡天喜地の情感を何等の制限なく暴露し盡した果、提督を以て「大明神」と崇め奉り、路傍に彼の軍服姿を見るならば、柏手をして打拜むと云ふやうな人に往々出逢うのは、餘りに度外れで、却つて滑稽の觀がありはすまいか。又近頃將軍の門前には常に十人二十人の群集が居て、將軍が外出する時には、一齊に聲を揃へて「萬歳々々」を叫喚し、怒號し、これが爲に車上の將軍は司令塔で三十三珊の砲彈に見舞はれたよりも、强い驚きに出逢ふと云ふなどは、甚だしき馬鹿氣けた圖であらうと思ふ。

▲日本國民が一體に「偉き人」「名譽ある人」に對する考へにも、兎角一個の間違つた思想がある。即ち將門將を出すと云ふやうな昔しの考へが先入主となり、それが俗間に流布して甚しい不條理な思想となつた。假令へば、「偉い人」の家の子は必ず偉い。「名譽ある人」の子は必ず名譽のある子、と云ふやうな考へで、この考へが、何時か根強い土臺を作つて、終に名家なるものを作に至り、高慢な無能な貴族的若樣を産出するに至るのである。平生かゝる誤れる思想の中に生活して居る余等は、常にこの邊に留意して、公正なる見地に立つ事を忘れぬやうにせねばならぬ。

〰〰〰〰〰〰〰〰

▲朝鮮、愚女と名乘られし方に。妻の姙娠中に不品行をなすなどは卑陋の限りにこそ。男子が出征中、郷里の妻の汚行を聞く時、彼は果して些の煩悶嫉妬なく、不義呼ばりだもせずして自若たるを得るや否や。お身の心根は察するに餘りあり。但し、實際の處置に就ては、お身の覺悟こそ一等宜からめ。さわがず騒せず、しばらく神の心を心として、好機至るを待ち玉へよ。

〰〰〰〰〰〰〰〰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來年の本誌

（擴張‼ 刷新‼ 發展‼）

本誌は是まで愛讀諸君より屢々改良若しくば增刊の勸告を受けましたが、種々事情の許さぬ爲め、今日まで舊態を持續致しました。然るに今回、自然の機運が熟しましたので、第四卷第一號（來年一月分）より大いに紙面の擴張と刷新とを計り、玆に一發展を爲すべき覺悟であります。即ち先づ

●●紙面は、頁數を增加して、現在（三十二頁）の凡そ二倍に致します。次に

●●編輯は、堺利彥が專ら其の任に當ります。但し西村渚山も亦、是まで通り必ず常に讀者諸君に見ゆる筈であります。

●●體裁は、是まで通り少しも變へませぬ。體裁の如きは到底我々の力の及ぶ所ではありませぬ。發行回數及び發行日も亦是までの通りであります。

●●代價は、勢ひ高くなるを免れませぬ。是は讀者諸君の御承認を願はねばなりませぬ。代價に關する事共、左の如し。

△一部金十錢（郵税共）△半年分前金五十五錢△一年分前金一圓△

本月を以て前金切となる諸君は、右の定額に五錢を加へて御拂繼を願ひます△來年分までの前金御拂込の諸君に對しては、本社にて新舊代價の計算を爲し、前金切となりたる時、それぞれ御通知申上げる事と致します。何卒それにて御承知願上げます。

●●●是に就きまして、今一つ御詫致さねばならぬのは、『少年叢書』の事であります。『少年叢書』は每月一回發行の事に廣告致して置きましたが、家庭雜誌の擴張に就ては色々混雜する事もありますし、無經驗にして手少なる我々には、二つの月刊物は到底やりきれぬと思はれますので、少々不始末ながら『少年叢書』は第一冊だけにてヤメに致し、それに載せる筈であつた面白き材料は、追々家庭雜誌に載せて行く心得であります。是亦惡しからず御承知を願ひます。

猶ほ次號の紙上に於て更に御披露致すかも知れませぬ。

（堺利彥記）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社 發賣取次 書籍目錄

（郵税は總て本社にて負擔す）

●社會主義入門（平民社同人編）價拾錢

●消費組合の話（石川旭山氏著）價十二錢

●地上の理想國 瑞西（安部磯雄氏著）價十五錢

●社會民主黨建設者 ラサール（幸德秋水氏著）價十五錢

●土地國有論（西川光二郎氏著）價十錢

●富の壓制（西川光二郎氏著）價十錢

●經濟進化論（田添鐵二氏著）價十五錢

●革命婦人（平民社同人編）價十二錢

●百年後の新社會（堺利彦譯）價五錢

●理想鄉（堺利彦譯）價五錢

●英國勞働界の偉人 バアンス（西川光二郎氏著）價五錢

●社會主義神髓（幸德秋水著）（目下品切中近日改版發行）

●小說 火の柱（木下尚江氏著）價卅五錢

●小說 良人の自白（上中下全三冊）（木下尚江氏著）價各卅五錢

●小說 勞働問題（堺利彦著）價卅五錢

●家庭の新風味（堺利彦著）價壹圓

●家庭夜話（堺利彦編）價壹圓

●枯川隨筆（堺利彦著）價二十錢

●言文一致 普通文（堺利彦著）價廿五錢

●我家の犬猫（堺利彦著）價八錢

●半生の墓（堺利彦著）價卅五錢

●少年叢書 目のある人（堺利彦著）價十錢

●青年と生存競爭（安藤兎毛吉著）價二十錢

●家庭雜誌合本（第二卷）價五十錢

注文所 東京市麴町區元園町一丁目 由分社

月刊 新紀元

第一號（十一月十日發行）

定價 ◎毎月一回、十日發行◎

△一部 金十二錢 郵税當方持
△六部 金七十錢 郵税仝斷
△十二部 金壹圓卅五錢 郵税仝斷
△申込は總へて前金の事

雲の色を視よ水の音を聽け**天地は新機運**に動き初めたる也、何ぞ速に醒めて起さるや、人よ、**我『新紀元』の使命**の自覺ここに在り山積する時事の論評指導は**木下尚江**其峻嚴の筆を執て之に任し切迫せる**社會問題**の學理的解明は**安部磯雄**其の玲瓏の頭を以て之に當り而して**徳富蘆花**又た多年の沈默を破り**『黒潮』第二編**に其雄渾なる想と流麗なる筆とを揮ふ、吾人の期する所は全心を捧げて使命に應ずるに在り

重要目次

◎日本國民の使命　木下尚江
○時事評論　△小村全權を憐む△平民社の解散△其他數項
◎新紀元の新題目　石川三四郎
○新紀元の發行を祝す　内村鑑三
◎獨占事業論　安部磯雄
○『黒潮』第二篇を掲載するに就て　徳富蘆花
◎市俄古平民の講壇　田添鐵二
○基督教の社會的理想　石川三四郎

發行所　東京府豐多摩郡淀橋町字角筈七百六十二番地　新紀元社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

ピンポン室内テニス

一號一箱	一、二二〇
二號同	一、五〇〇
三號同	一、六八〇
四號同	一、八三〇
號外、同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號一張四間半	一、七五〇
二號一張五間半	二、二五〇
三號一張六間	二、四五〇
四號一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號一個	四、〇〇〇
三號同	四、五〇〇
四號同	五、〇〇〇
五號同	五、五〇〇
六號同	六、〇〇〇
七號同	六、五〇〇
八號同	七、〇〇〇

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

● 廣告 ●

佛國ワグナー氏著 在米マスター、オブアーツ 中村嘉壽君譯

The Simple Libe

單純生活

十一月下旬發兌 定價三拾錢

複雜なる社會に處して單純なる生活を營み剛健なる氣象を以て浮華なる俗流と戰ふ眞味を說きたる世界有名の書にして最も我國今日の時弊に的中したる教訓を與ふるものなり

葛卷星淵君著

信仰餘賦 **小星**（いさゝほし）

訂正再版 定價拾八錢

是れ信仰上の感想を新體詩及短歌に賦したるもの傳ふる所に美文麗句にあらず奇想妙思にもあらずして世の兄弟姉妹に頒たんとする希望と慰藉と也

東京看護婦會長大關和子著

派出看護婦心得 再版 正價拾錢 郵稅二錢

福田銈二君編

處女の死と靈魂不滅 訂正再版 定價八錢 郵稅不要

松永文雄君編

片岡健吉君傳（肖像入） 定價廿五錢 郵稅四錢

發兌 東京神田區… 中庸堂書店

日本社會主義の機關

直言

每月二回發行 一部價三錢五厘 廿部前金六十五錢

解停後の直言は、舊平民社同人援助の下に西川光次郎、山口義三の兩人一切の責任を負ひ、繼續發行すべし、此段愛讀諸君に謹告す

本紙に關する一切の通信は、東京市本郷區駒込動坂町五四西川光次郎へ宛てられたし

同志諸君に告ぐ

平民社の解散後〆會合團結の機關を失ひたる吾人同志は、今後

東京神田三崎町三ノ一 平民舍ミルクホール

に於て交情を溫め、聯絡を通ずるの機會を得んと欲す、敢て在京及地方同志諸君に告ぐ

（同舍には社會主義に關する內外の新聞書籍、雜誌の備付あり…）

社會主義同志某某

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢　廿二日分(常備用)金壹圓　十日分金五拾錢
六日分金三拾錢　四日分金貳拾錢

本舖 東京市日本橋區藥研堀町　藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第十一號　明治三十六年四月五日第三種郵便物認可　明治三十八年十一月二日發行

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

粉製　**赤罐入**　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帶に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一個拾貳錢

發兌元　大阪　小林支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA